

令和7年度衣類バンク事業連絡会議

実施日	令和7年 11 月10日(月) Zoom によるオンライン
参加者	33名 (衣類バンク実施施設長・担当者、市町村社協)
実践報告者	①社会福祉法人美咲会 特別養護老人ホームみずほ苑 徳永氏 ②彩の国あんしんセーフティネット事業 社会貢献支援員 熊木氏 ③埼玉県社協 家計改善支援員 石島氏



当日のオンラインの様子

内容

特別養護老人ホームみずほ苑の徳永氏より、法人が取り組まれている社会貢献活動の紹介と併せて衣類収集活動について実践報告をいただいた。また、困窮世帯への支援を行っている社会貢献支援員の熊木氏及び家計改善支援員の石島氏からは、実施施設が収集した衣類をどのように活用しているか、支援事例とともに報告をいただいた。

グループワークでは、各施設での衣類収集方法やその効果、近隣の施設・社協と協働した周知・衣類収集方法について、意見交換を行うことで情報を共有した。

【みずほ苑 徳永氏のお話】

今年度は、法人内に『衣類バンク推進チーム』を立ち上げ、各拠点での衣類回収を実施した。衣類強化月間を設け、全職員へ寄付を呼び掛けたほか、ショート動画を作成し、SNSでの発信や公式LINEでの動画共有により、こども食堂の利用家庭には利用情報が届くようにした。

周知活動を強化するためには、理事長や上司からの助言やサポートはもちろん、広報担当チームの協力が欠かせなかった。衣類バンク推進チームをつくることで一緒に取り組んでくれる仲間が増え、活動への関心をもつ職員が増えたと感じている。

法人の取組はコチラから➡



【社会貢献支援員 熊木氏のお話】

セーフティネット事業の支援は直接命にかかわる食料や水光熱費の支援となり、衣類の優先順位は低い。しかし衛生状況への懸念や、季節に合った服でないと健康も保てないと感じている。近年、衣類の支援件数が急増していることから分かる通り、今後も衣類バンクの相談が増えることが見込まれる。これからも皆様と連携していきたい。

【家計改善支援員 石島氏のお話】

衣類は食事や水光熱費と比べ、緊急度合いが低く後回しになりがちである。こどもが身なりを整えられないと、学校へ行きたくなくなり、通えてもいじめにもつながりかねない。必要とする世帯に支援することで、清潔を保つだけでなく家族の心にゆとりが生まれる。

家計改善支援員として、世帯のニーズを把握し、衣類を届けることで家族の心により沿っていきたい。実施施設の取組みあってこそその支援であり、感謝している。

参加者の声

- ・強化月間や地域との協力等、自施設だけではない取組の強化が必要と感じた。
- ・衣類の仕分け、梱包を含めた作業をボランティアの方々にお手伝いをいただくことはとても効率よく一連の作業を行うことができ且つ取組の理解と取り組んでいただける方々を増やすことへも繋がっていくことに気づかせていただいた。
- ・法人グループ内の職員へ呼びかけて推進チームを設置するなど協力体制を見習わせていただきたと思った。
- ・困窮相談を受ける際に、衣類への支援の視点も大切だと感じた。